



剖検病理検体のパーキンソン病および関連神経変性疾患ブレインバンクへの提供(寄託)と研究使用に関するお願い(ご遺族用、PDBB IC2-1)

パーキンソン病および関連神経変性疾患ブレインバンク(以下、パーキンソン病ブレインバンクと略)では、パーキンソン病や関連する神経変性疾患等の医学研究を推進し治療法を開発するための基礎試料として死後脳・脊髄組織等の剖検検体(以下、検体)を保存し、医学研究者に提供しています。

このたび亡くなられた患者様は、その生前に「自分の死後に脳を医学研究に使用してよい」というと篤志を表明され、パーキンソン病ブレインバンクに献脳生前同意登録(献脳ドナー登録)をしておられました。この献脳ドナー登録により、病理解剖と検体がパーキンソン病ブレインバンクに提供(寄託)されることに同意することを表明されましたが、この同意は医学研究倫理上の意義は大きいですが、病理解剖を実施する法律上の根拠とはなりません。

病理解剖と病理解剖で得られた検体の保存は現行の法律である「死体解剖保存法」に従い、ご遺族に同意していただいた場合に限り行われます。ご遺族におかれましては、病理解剖が実施され、死後脳などの検体が摘出され、検体がパーキンソン病ブレインバンクに提供(寄託)され、解剖実施病院のパーキンソン病ブレインバンク デポジトリ(保存庫)において保存され、医学研究に使用されることについて同意あるいは不同意の判断をしていただきますようお願いいたします。

ご遺族が同意してくださる場合は以下の手順に従ってドナー登録していただいた方のご遺体を病理解剖し、検体を保存させていただきます。ご遺族の同意が得られない場合は、パーキンソン病ブレインバンクの対象としての病理解剖は行いません。

なお、検体は原則として匿名で検査・保存されますので、患者様の氏名などの個人を特定できる情報は、検査実施者および検査技師を除き知られることはありません。また同意を頂き病理検体をパーキンソン病ブレインバンクに提供(寄託)された場合は、検体番号で検体データベースに登録し、医学研究に用いる場合には検体番号で整理し提供されます。研究の実施及び発表に際して、氏名などの個人を特定できる情報は一切明らかにされません。患者様の個人情報には厳重に保護されます。また同意はいつでも撤回できます。

パーキンソン病ブレインバンクは、献脳ドナー登録から病理解剖の実施、検体の保存、医学研究への提供のすべての段階で国立精神・神経センター倫理委員会の審査承認を得ており、適正に運営されているかどうかなどについても倫理委員会の監督下にあります。

1. 病理解剖を中心とした疾病の原因と死因の究明が死体解剖保存法に従って実施されること

現行の法律である死体解剖保存法に従って、解剖実施病院の規定と手順により病理解剖と剖検診断が実施されます。パーキンソン病ブレインバンクへの検体の提供(寄託)にご同意いただける場合は、解剖実施病院の説明を受け同意していただきますようお願いいたします。脳と脊髄は第2項に記すパーキンソン病ブレインバンク デポジトリー(保存庫)に保存されますが、内臓などその他の病理検体は解剖実施病院の検体保存庫に保存されます。

病理解剖の範囲に関する補足説明

病理解剖は、特にご指定のない場合は、全身解剖を行います。しかし、脳のみを解剖を選択することができます。これは以下の理由によります。

◆病理解剖の第一の目的は患者様がお亡くなりになった直接の原因を最終診断することにあります。パーキンソン病では死亡の直接原因は肺炎、心疾患、偶然合併した癌、脳血管障害などです。これらの病気を見逃さないために、通常は脳だけでなく肺・心臓・肝臓・腎臓・腸などの内臓全般を検査しています。また、パーキンソン病では、起立性低血圧と慢性便秘などの自律神経系の障害が高頻度で見られますので、脊髄と交感神経節を摘出し、更に心臓などに分布している交感神経線維などを検査する必要があります。

◆脳のみを解剖を選択される場合には、例えば“パーキンソン病”という神経疾患の臨床診断(生前の診断)が正しかったのかどうか、偶然に合併する脳の病気がなかったのか、という問題にこたえることはできませんが、脳以外の病気を確定診断することはできません。

パーキンソン病ブレインバンクでは、解剖時に摘出した脳と脊髄のみを専用の“パーキンソン病ブレインバンク デポジトリー(保存庫)”に保存します(第(5)項をご参照ください)。全身解剖にご同意いただいた場合は、心臓などの内臓諸臓器も重要な研究試料ですので、ご遺族の同意を得られればその一部を解剖実施病院の病理部門で保存させていただきます。

2. 剖検病理検体をパーキンソン病ブレインバンクに提供(寄託)すること

- (1) 剖検により摘出された脳脊髄の検体(以下、剖検病理検体)を医学研究に使用するために、パーキンソン病ブレインバンクに提供(寄託)していただきます。
- (2) 剖検病理検体は死体解剖保存法等に従って解剖実施病院(例:武蔵病院内)に保存されます。保存場所は、パーキンソン病ブレインバンク デポジトリー(保存庫)です。
- (3) 剖検病理検体は匿名化されパーキンソン病ブレインバンク検体データベースに登録されます。このデータベースには個人名は登録されません。このデータベースサーバーは不正な侵入を阻止するための最善の対策を行っています。
- (4) パーキンソン病ブレインバンクに提供(寄託)された検体は、mRNA測定などの精度管理が行われ記録されます。
- (5) パーキンソン病ブレインバンクへの提供(寄託)の同意はいつでも撤回できます。その場合には保存されていた剖検病理検体は丁寧に火葬されます。しかし既に研究に使用した場合、研究者には研究データ(実験処理加工された検体標本など)を証拠として一定の期間保存する義務がありますので、検体の一部はただちに火葬することができない場合があります。
- (6) パーキンソン病ブレインバンク検体は、解剖実施病院に保存します。しかし、将来のブレインバンクの名称や機構の変化や法律等の変更により、検体の一部あるいは全部が保存される施設が変わる可能性があります。

3. パーキンソン病ブレインバンクから医学研究使用に提供されること

- (1) 剖検病理検体は、パーキンソン病ブレインバンクのデポジトリーから剖検実施施設(国立精神・神経センター武蔵病院)外の医学研究者および医学研究機関に研究目的で提供されます。また研究終了後に余剰検体はパーキンソン病ブレインバンクのデポジトリーに返却されます。
- (2) 医学研究への提供の可否は、試料提供審査委員会において、研究の意義、研究の倫理などを公正に審査され決定されます。医学研究への提供状況はパーキンソン病ブレインバンクのホームページ上で公開します。
- (3) 研究内容は、タンパク解析研究、mRNA解析研究、ゲノム解析研究などです。
- (4) 剖検病理検体は匿名化され提供されるため、個人情報の漏洩は起こりません。
- (5) 医学研究は死体解剖保存法や関連する倫理指針等を遵守して実施されることを徹底します。

(6) 研究成果は、学会発表や学術雑誌で公表され、またパーキンソン病ブレインバンクのホームページ上 (<http://www.brain-bank.org>) に公開されます

(7) 研究から生じた知的財産権はパーキンソン病ブレインバンク、研究機関、研究遂行者に帰属します。

(8) 医学研究に検体を使用することについて、あらかじめご遺族から同意を頂きますので、個別の研究計画については原則として、ご遺族に対し同意の確認や結果の通知はしません。しかし、倫理委員会の審査の結果、同意の確認が必要であるとされた場合は、ご遺族に連絡することがあります。

4. パーキンソン病ブレインバンクへの検体の提供(寄託)を中止したいとき

何らかの理由で検体の提供(寄託)の中止を希望される場合は、別紙の「パーキンソン病および関連神経変性疾患ブレインバンクへの検体の提供(寄託)の中止願」を郵送等で提出して下さい。

検体は、たとえ一部分であれご遺体そのものと同様に尊厳ある取り扱いがなされる必要があります。その保存を中止する場合は、埋葬あるいは火葬に付す必要があります。従って、ご遺族から特に指定がない場合には病理検体管理病院において丁重に火葬させていただきます。

5. 連絡先

〒187-8551 東京都小平市小川東町 4-1-1
国立精神・神経センター武蔵病院内
パーキンソン病および関連神経変性疾患ブレインバンク研究班
献脳生前同意登録事務局
E-mail : info@brain-bank.org
電話 042-346-1868、ファックス 042-346-1889



厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患克服研究事業)
パーキンソン病および関連神経変性疾患ブレインバンク研究班
献脳生前同意登録事務局
〒187-8551 東京都小平市小川東町 4-1-1
国立精神・神経センター内
電話 042-346-1868、ファックス 042-346-1889
研究班ホームページ: <http://www.brain-bank.org>

剖検病理検体のパーキンソン病および関連神経変性疾患ブレインバンクへの提供(寄託)と
研究使用に関する同意書 (武蔵病院で病理解剖されるご遺族用、PDBB IC2-2N)

国立精神・神経センター武蔵病院長 殿
パーキンソン病および関連神経変性疾患ブレインバンク運営委員会 委員長 殿

亡くなられた方のお名前 _____ 様 生年月日 ____年__月__日生[男・女]
生前のご住所 _____ 死亡年月日 ____年__月__日
死亡の場所 東京都小平市小川東 4-1-1 国立精神・神経センター武蔵病院
〔その他:在宅・医療機関等 _____〕

1. 病理解剖を中心とした疾病の原因と死因の究明が死体解剖保存法に従って実施されること
国立精神・神経センター武蔵病院で通常用いる病理解剖同意書にご同意をいただくため、本項は省略します。

2. 剖検病理検体(検体)をパーキンソン病および関連神経変性疾患ブレインバンク(パーキンソン病ブレインバンク)に提供(寄託)すること
 検体をパーキンソン病ブレインバンクに提供(寄託)すること
 検体は死体解剖保存法等に従って保存されること
 検体は匿名化されパーキンソン病ブレインバンク検体データベースに登録されること
 検体に精度管理が行われること
 パーキンソン病ブレインバンクへの検体提供(寄託)の同意は撤回できること
 パーキンソン病ブレインバンクの名称や機構および検体の保存病院が将来変わる可能性があること
私は、上記の項目を理解した上で検体をパーキンソン病ブレインバンクに提供(寄託)することに同意します。

3. パーキンソン病ブレインバンクから検体が医学研究使用に提供されること
 検体が研究目的で提供されること
 検体の提供の可否の決定について
 検体を用いた研究内容について
 検体は匿名化され提供されること
 医学研究は死体解剖保存法や関連する倫理指針等を遵守して実施されること
 研究成果の公表について
 研究から生じた知的財産権の所属について
私は、上記の項目を理解した上で検体がパーキンソン病ブレインバンクから医学研究に提供されることに同意します。

ご遺族代表の署名

お名前 _____ 続柄 _____ 日付 ____年__月__日

ご住所 _____

説明者

医師 署名 _____ 国立精神・神経センター武蔵病院 _____ 科

東京都小平市小川東町 4-1-1、電話 042-341-2711



厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患克服研究事業)
パーキンソン病および関連神経変性疾患ブレインバンク研究班
献脳生前同意登録事務局
〒187-8551 東京都小平市小川東町 4-1-1
国立精神・神経センター内
電話 042-346-1868、ファックス 042-346-1889
研究班ホームページ: <http://www.brain-bank.org>

剖検病理検体のパーキンソン病および関連神経変性疾患ブレインバンクへの
提供(寄託)の中止願 (武蔵病院で病理解剖されたご遺族用、PDBB IC2-3N)

亡くなられた方のお名前 _____ 様
生年月日 _____年 __月 __日生 [男・女]

生前のご住所 _____

死亡年月日 _____年 __月 __日

病理解剖実施・病理検体保存施設長 殿
パーキンソン病および関連神経変性疾患ブレインバンク運営委員会 委員長 殿

ご遺族代表者記入欄

上記の患者(死亡者)の剖検病理検体のパーキンソン病および関連神経変性疾患ブレインバンクへの
提供(寄託)を中止します。

記入日 _____年 __月 __日

ご遺族代表者 氏名 _____ 死亡者との続柄 _____
住所 〒 _____
電話 _____

変更届の送付先

〒187-8551 東京都小平市小川東町 4-1-1
国立精神・神経センター内
パーキンソン病および関連神経変性疾患ブレインバンク研究班
ブレインバンク運営委員会



「病理解剖とブレインバンクに対する意識調査」

パーキンソン病や進行性核上性麻痺などの神経難病は、脳の中の神経細胞の機能が異常となり発症します。これまでに多くの薬剤が開発されていますが、根本的な治療法はまだ見つかりません。パーキンソン病などの原因を解明し、治療法を開発するためには、患者様の死後脳を試料として研究する必要があります。日本では患者様の死後にご遺族の許可を得て「死体解剖保存法」という法律に従って病理解剖し、ご遺体から脳や内臓を摘出し、死亡の直接の原因を明らかにするとともに、ご遺族の許可により死後脳を保存し医学研究に使用することがあります。死後脳を保存し、医学研究者に提供する機構をブレインバンク(脳バンク)と呼びます。ご遺体の解剖から脳の保存と研究への使用のすべての段階で、現行法である「死体解剖保存法」と「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」などの医学研究に関する倫理指針を遵守してブレインバンクは運営されています。

欧米では、“自分が死んだ後に自分の死後脳をブレインバンクに献体するので、医学研究に使って欲しい”という、生前からの献脳同意登録(ドナー登録)が広く実施されています。献脳同意登録は、患者様がブレインバンクの意義を理解し熟慮し判断できる時期に、自分の死後に病理解剖により脳を摘出しブレインバンクに提供する篤志を登録していただくことが基本的な理念です。日本では福島県立医科大学が生前からの同意登録による“精神疾患ブレインバンク”を運営しています。

日本で献脳生前同意登録の患者様が死亡された場合も、現行法である「死体解剖保存法」に従って、ご遺族の同意を根拠として病理解剖を行い、脳などの組織が保存され研究に提供される現在の手順に全く変わりはありません。ご本人の同意登録は医学研究倫理上の意義は大きいですが“病理解剖と死後脳などの保存と研究使用”の根拠とはならず、“病理解剖と死後脳などの保存と研究使用”は「死体解剖保存法」を遵守して行われます。

私たちは厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患克服研究事業)を得て「パーキンソン病および関連神経変性疾患の生前同意に基づく脳バンクの構築に関する研究班」を組織し、パーキンソン病などの神経難病を対象とした献脳同意登録を行う際の条件などについて検討していますが、いまだ実現していません。

献脳同意登録は、患者様が熟慮し判断できる時期に、ブレインバンクの意義を理解していただいた上で、自分の死後に病理解剖により脳を摘出しブレインバンクに提供する篤志を登録していただきます。患者様ご自身で判断していただくことが重要ですので、病気の進行に伴い判断力に障害が生じている場合は登録を受け付けない予定です。また患者様の死後の病理解剖とブレインバンクへの脳組織の提供はご遺族の承諾を得て、死体解剖保存法に従って行います。

この調査では、病気に罹っておられる患者様、患者様のご家族、および一般の方々に、病理解剖やブレインバンクに対する意識についてお尋ねします。調査目的は、ブレインバンクが一般市民の皆様へ受け入れられるための問題点を明らかにし、ブレインバンクの活動を改善するための資料を得ることです。ぜひ、本研究の意義をご理解いただき、ご協力を頂きますようお願い申し上げます。

「パーキンソン病および関連神経変性疾患の生前同意に基づく脳バンクの構築に関する研究」研究班
主任研究者 久野 貞子 (国立精神・神経センター武蔵病院 副院長)
パーキンソン病および関連神経変性疾患ブレインバンク研究班事務局
東京都小平市小川東町 4-1-1 国立精神・神経センター
E-mail: info@brain-bank.org FAX 042-346-1889 電話 042-346-1868

調査票記入にあたってのご説明

1. 調査のお願い、および調査の拒否について

一般市民の方、患者様、患者様のご家族などが対象です。各種の集会、講演会や公開講座などに参加された方に調査します。

なお、調査を拒否される場合は、提出しないかあるいは記入しないで提出してください。調査票の回答をもちまして本調査への同意とさせていただきます。

2. 記入に際してのお願い

この調査票に記入された内容は調査以外の目的に使ったり、他に漏らしたりすることはありませんので、ありのままに記入してください。各質問の中から、当てはまる事柄を選択し、その番号に ○ をつけてください。複数選択可能です。第2ページと第3ページを回収します。

3. 個人情報の扱いなどについて

本調査は無記名です。また回答は数値化して統計学的に処理しますので、皆様のプライバシーに関することは厳重に守られます。調査票本体は「パーキンソン病および関連神経変性疾患ブレインバンク研究班事務局」でコンピュータに入力したあと、裁断し廃棄されます。コンピュータに入力されたデータは分担研究機関で解析されます。調査結果と研究成果は報告書・論文や学術集会等で報告され、また当研究班のホームページ：<http://www.brain-bank.org> で公表されます。しかし、個別データを公表することはありません。なお、この研究は国立精神・神経センターの倫理委員会において承認を受けています。

病理解剖とブレインバンクに対する意識調査

- まず、あなたのご年齢をお尋ねします。あてはまるものに○を付けて下さい。
 - 19歳以下
 - 20～29歳
 - 30～39歳
 - 40～49歳
 - 50～59歳
 - 60～69歳
 - 70～79歳
 - 80～89歳
 - 90～99歳
 - 100歳以上
- あなたの性別に○を付けて下さい。
 - 男
 - 女
- あなたあるいは身近なご家族がパーキンソン病などの病気であるかどうかお尋ねします。
 - 自分はパーキンソン病や関連疾患に罹っている患者である
 - 自分はパーキンソン病や関連疾患以外の病気に罹っている患者である
 - 血縁関係にある家族がパーキンソン病や関連疾患に罹っている
 - 血縁関係にある家族がパーキンソン病や関連疾患以外の病気に罹っている
 - 血縁関係にない家族(配偶者など)がパーキンソン病や関連疾患に罹っている
 - 血縁関係にない家族(配偶者など)がパーキンソン病や関連疾患以外の病気に罹っている
 - 自分も血縁関係にある家族も病気ではない
- あなたのご家族(ある程度ご年配の方とします)が、あるご病気でお亡くなりになったといたします。主治医から、亡くなられたご家族の病理解剖を依頼された場合、どのようにお答えになりますか。
 - 承諾します ⇒質問5に進んで下さい
 - 承諾しません ⇒質問6に進んで下さい
 - その場になってみないと分かりません ⇒質問7に進んで下さい
- 質問4でaとお答えになった方にお尋ねします。その理由を以下から選んで下さい。(複数回答可)
 - 亡くなった原因を詳しく知りたいから
 - 病気の発症原因が明らかになることが期待されるから
 - 病気の治療方法の進歩につながると期待されるから
 - 亡くなった原因を知ることにより自分の健康に役立てたいから
 - 主治医によく反省してほしいから
- 質問4でbとお答えになった方にお尋ねします。その理由を以下から選んで下さい。(複数回答可)
 - 自分や家族の信仰する宗教では病理解剖が許されていないから
 - 家族の遺体を、これ以上傷付けてほしくないから
 - 家族の詳しい死亡原因を知りたくないから
 - 家族の個人情報被人に知られたくないから
 - 家族の遺体を一刻も早く家へ連れて帰りたいから
- 次に、あなたご自身が何かの病気でお亡くなりになったといたします。主治医は熱心にあなたの治療に当たってくれたとした場合、病理解剖を受けてもよいとお考えになりますか。
 - 自ら希望する ⇒質問8に進んで下さい
 - 家族が承諾するなら受けてもよい ⇒質問8に進んで下さい
 - お断りしたい ⇒質問10に進んで下さい



厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業
「パーキンソン病および関連神経変性疾患の生前同意に基づく
脳バンクの構築に関する研究」班

主任研究者 久野貞子 (国立精神・神経センター武蔵病院)

市民講演会

パーキンソン病の 治療法開発と 脳バンクの役割

- 13:00 主任研究者挨拶 久野貞子
13:10-13:25 国立精神・神経センター脳バンク設立への道筋
国立精神・神経センター 院長 金澤一郎
- Session 1** 座長 久野貞子
13:30-14:00 パーキンソン病の脳の変化
新潟大学脳研究所 教授 高橋 均
14:00-14:30 パーキンソン病の病態と治療
関東労災病院 院長 柳澤信夫
14:30-14:50 休憩
- Session 2** 座長 樋口輝彦
14:50-15:20 皮膚科医であった患者(私)からみた脳バンクの重要性
医師 橋爪鈴男
15:20-15:50 福島医大における精神疾患の生前同意脳バンクの経験
福島県立医科大学 教授 丹羽真一
- Session 3**
15:50-16:00 パーキンソン病の献臓生前同意登録による脳バンクの検討
国立精神・神経センター武蔵病院 臨床検査部長 有馬邦正
16:00 閉会の挨拶
国立精神・神経センター武蔵病院 院長 樋口輝彦

Gift of Hope

平成18年11/25 [土] 13:00-16:00
秋葉原コンベンションホール

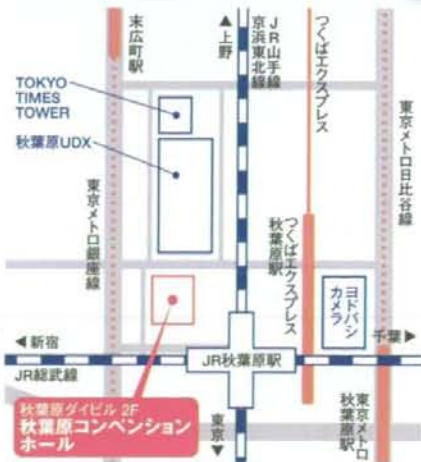
〒101-0021 東京都千代田区外神田1-18-13 秋葉原ダイビル4F
TEL:03-5297-0230 FAX:03-5297-5955

お問い合わせ

「パーキンソン病および
関連神経変性疾患の生前同意に基づく
脳バンクの構築に関する研究」研究班事務局
国立精神・神経センター武蔵病院内
FAX:042-346-1787 E-mail:lect@brain-bank.org
<http://www.brain-bank.org>

お申し込み

先着300名、事前予約も可能です。FAX又はE-mailにてお申し込みください





厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業
 「パーキンソン病および関連神経変性疾患の生前同意に基づく
 脳バンクの構築に関する研究」班
 主任研究者 久野貞子 (国立精神・神経センター武蔵病院)

[第2回 市民講演会]

パーキンソン病の 治療法開発と 脳バンクの役割

Gift of Hope

13:00-13:00	開会の挨拶 脳バンク研究班設立の経緯 久野貞子 (国立精神・神経センター武蔵病院)
13:10-14:10	パーキンソン病とはどんな病気? 水野美邦 (順天堂大学医学部脳神経内科)
14:10-14:40	パーキンソン病の病理 齊藤祐子 (東京都老人総合研究所) 休憩 (20分)
15:00-15:30	パーキンソン病の最新治療 久野貞子 (国立精神・神経センター武蔵病院)
15:30-16:00	パーキンソン病の再生医療による治療の試み 高坂新一 (国立精神・神経センター神経研究所)
16:00-16:20	パーキンソン病の献体生前同意登録による 脳バンクの検討 有馬邦正 (国立精神・神経センター武蔵病院)

平成19年 **2/24** [土] 13:00-16:30
虎ノ門パストラル 新館 5階
 ローレル

〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-1-1
 TEL:03-3432-7261 (代)

お問い合わせ

「パーキンソン病および
 関連神経変性疾患の生前同意に基づく
 脳バンクの構築に関する研究」
 研究班事務局

国立精神・神経センター武蔵病院内
 FAX:042-346-1889
 E-mail:lect@brain-bank.org
 http://www.brain-bank.org

お申し込み

先着100名、事前予約も可能です。FAX又は
 E-mailにてお申し込みください



- 東京メトロ日比谷線
- 東京メトロ丸の内線
- 東京メトロ千代田線
- 東京メトロ有楽町線
- 東京メトロ南北線
- 都営地下鉄大江戸線
- 京王山手線
- 東京モーター



- 電車ご利用 地下鉄日比谷線神谷町駅4b出口より徒歩2分
地下鉄有楽町線虎ノ門駅2番出口より徒歩6分
- 東京駅から 地下鉄丸の内線有楽町駅で日比谷線(中目黒方面)に乗り換え、神谷町駅下車
○山手線有楽町線よりお車で約7~8分
- 新大塚駅から 地下鉄丸の内線有楽町駅で日比谷線(中目黒方面)に乗り換え、神谷町駅下車
○山手線有楽町線よりお車で約7~8分
- 新大塚駅から 地下鉄丸の内線有楽町駅で日比谷線(中目黒方面)に乗り換え、神谷町駅下車
○山手線有楽町線よりお車で約7~8分
- 羽田空港ご利用 モーターバス松町駅よりお車で約7~8分
- 首都圏高速ご利用 豊洲ランプより約8~10分
芝公園ランプより約8~10分



厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業
「パーキンソン病および関連神経変性疾患の生前同意に基づく
脳バンクの構築に関する研究」班
主任研究者 久野貞子 (国立精神・神経センター武蔵病院)

【第3回 市民講演会】

パーキンソン病の 治療法開発と 脳バンクの役割

プログラム

- 13:00-13:10 主任研究者挨拶
久野貞子 [国立精神・神経センター武蔵病院・副院長]
- 13:10-13:50 パーキンソン病とは
中野今治 [自治医科大学神経内科教授]
- 13:50-14:30 パーキンソン病の脳病変について
田中順一 [済和会青羽病院神経病理研究センター所長
(元・慈恵医科大学神経病理学教授)]
- 14:30-14:50 休憩
- 14:50-15:30 パーキンソン病の最新治療
村田美穂 [国立精神・神経センター武蔵病院・第二病棟部長]
- 15:30-16:10 献納生前同意登録によるパーキンソン病脳バンクの活動
有馬邦正 [国立精神・神経センター武蔵病院・臨床検査部長]

Gift of Hope

平成19年 **10/27** [土] 13:00-16:00
ベルサール神田

東京都千代田区神田美土代町7
住友不動産神田ビル2・3F

お問い合わせ

「パーキンソン病および関連神経変性疾患の
生前同意に基づく脳バンクの構築に関する
研究」研究班事務局

国立精神・神経センター武蔵病院内

FAX: 042-346-1889

E-mail: lect@brain-bank.org

http://www.brain-bank.org

お申し込み

先着160名、事前予約も可能です。

FAX又はE-mailにてお申し込みください



小川町駅 [B6出口] 徒歩2分 (新宿線)
淡路町駅 [B6出口] 徒歩2分 (丸の内線)
新御茶ノ水駅 [B6出口] 徒歩2分 (千代田線)
神田駅 [4番出口] 徒歩6分 (JR・有楽町線)
大手町駅 [C11出口] 徒歩8分 (丸の内線・東西線・三田線・千代田線)



厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業
「パーキンソン病及び関連神経変性疾患の生前同意に基づく
脳バンクの構築に関する研究」班
主任研究者 久野貞子 (国立精神・神経センター武蔵病院)

【第4回 市民講演会】

パーキンソン病の 治療法開発と 脳バンクの役割

プログラム

- 12:30-12:40 開会の挨拶
久野貞子 (主任研究者)
- 12:40-13:40 パーキンソン病及び関連神経変性疾患の
克服のために「脳バンク」の必要性
永津俊治 (豊田保健衛生大学医学部薬理学講座
名古屋大学環境医学研究所脳機能分野客員教授)
- 13:40-14:00 休憩
- 14:00-15:00 パーキンソン病一症状からお薬まで
森 秀生 (順天堂大学医学部脳神経内科
順天堂大学医学部附属順天堂麹谷病院 神経内科)
- 15:00-15:10 パーキンソン病の外科治療の適応と問題点
久野貞子 (国立精神・神経センター武蔵病院)
- 15:10-15:30 パーキンソン病の献納生前同意登録の紹介
有馬邦正 (国立精神・神経センター武蔵病院)



Gift of Hope

平成20年 **2/16** [土] 12:30-15:30
ベルサール神田

東京都千代田区神田美土代町7
住友不動産神田ビル2・3F

お問い合わせ

「パーキンソン病および関連神経変性疾患の
生前同意に基づく脳バンクの構築に関する
研究」研究班事務局
国立精神・神経センター武蔵病院内
FAX: 042-346-1889
E-mail: lect@brain-bank.org
http://www.brain-bank.org

お申し込み

先着160名、事前予約も可能です。
FAX又はE-mailにてお申し込みください



小川町駅「B6出口」徒歩2分(都営地下鉄新宿線)
淡路町駅「B6出口」徒歩2分(東京メトロ丸ノ内線)
新御茶ノ水駅「B6出口」徒歩2分(東京メトロ千代田線)
神田駅「4番出口」徒歩6分(JR・東京メトロ有楽町線)
JR東京駅・JR神田駅・JR御茶ノ水駅よりタクシー



厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業
 「パーキンソン病及び関連神経変性疾患の生前同意に基づく
 脳バンクの構築に関する研究」班
 主任研究者 久野貞子 (国立精神・神経センター病院)

【第5回 市民講演会】

パーキンソン病の 治療法開発と 脳バンクの役割



プログラム

- 13:00-13:30 開会の挨拶
久野貞子 [主任研究者 国立精神・神経センター病院]
- 13:30-14:30 パーキンソン病の病理学:これまで明らかにされたことと将来の課題
若林孝一 [弘前大学大学院医学研究科 脳神経病理学講座]
- 14:30-14:50 休憩
- 14:50-15:50 パーキンソン病の治療
横地房子 [東京都立神経病院 神経内科]
- 15:50-16:10 休憩
- 16:10-16:40 パーキンソン病の献体生前同意登録による脳バンクの運営
有馬邦正 [国立精神・神経センター病院 臨床検査部]

Gift of Hope

平成20年 **7/26** [土] 13:30-16:40
京王プラザホテル多摩

東京都多摩市落合1-43
 京王プラザホテル多摩 白黒8の間

お問い合わせ

「パーキンソン病および関連神経変性疾患の生前同意に基づく脳バンクの構築に関する研究」研究班事務局
 国立精神・神経センター内
 FAX:042-346-1889
 E-mail:lect@brain-bank.org
 http://www.brain-bank.org

お申し込み

先着120名、事前予約も可能です
 FAX又はE-mailにてお申し込みください



access

京王多摩センター・小田急多摩センター駅より徒歩1分



厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業
「パーキンソン病及び関連神経変性疾患の生前同意に基づく
脳バンクの構築に関する研究」班
主任研究者 久野貞子 (国立精神・神経センター病院)

第6回 市民講演会

パーキンソン病の 治療法開発と 脳バンクの役割

プログラム

- 13:00-13:30 主任研究者挨拶
久野貞子
[国立精神・神経センター病院 副院長]
- 13:30-14:30 パーキンソン病の病理
吉田眞理
[愛知医科大学加齢医学研究所
神経病理学講座 准教授]
- 14:30-14:50 休憩
- 14:50-15:50 パーキンソン病の最新治療
村田美穂
[国立精神・神経センター病院 第2病棟部長]
- 15:50-16:10 休憩
- 16:10-16:40 パーキンソン病の献腦
生前同意登録による脳バンクの運営
有馬邦正
[国立精神・神経センター病院 第一病棟部長]

Gift of Hope

平成 21年 **1/24** [土] 13:00-16:30

中野サンプラザ

東京都中野区中野4-1-1

お問い合わせ

「パーキンソン病および関連神経変性疾患の
生前同意に基づく脳バンクの構築に関する研究」
研究班事務局
国立精神・神経センター内
FAX: 042-346-1889
E-mail: lect@brain-bank.org
http://www.brain-bank.org/

お申し込み

先着90名、事前予約も可能です
FAX又はE-mailにてお申し込みください



access

JR中央線中野駅、東京メトロ東西線中野駅下車徒歩1分

「パーキンソン病および関連神経変性疾患の生前同意における脳バンクの構築に関する研究」

主任研究者 久野貞子 (国立精神・神経センター武蔵病院)

パーキンソン病および 関連神経変性疾患 ブレインバンク

(国立精神・神経センター内)

パーキンソン病および関連神経変性疾患ブレインバンク運営委員会

Gift of Hope

献脳生前同意登録事務局

- コーディネーター
- 献脳生前同意登録データベース
 - ※個人情報を含む
 - ※事務局コーディネーターのみが登録・編集・閲覧可能

ブレインバンク事務局

- 個人情報管理者
- パーキンソン病および関連神経変性疾患ブレインバンク検体データベース
 - ※個人情報を含まない
 - ※担研究者と事務局コーディネーターのみが登録・編集・閲覧可能

ブレインバンクの脳の収集・保存・研究使用の一般的な手順
患者様死亡後、死体解剖保存法等を遵守

試料提供者、患者様(死亡)
ご遺族から同意を得る



① 医師はご遺族から「死体解剖保存法」等に従った病理解剖、病理検体保存、研究への使用の同意を得る

医師



② 研究計画を説明
試料提供に伴う危険の説明、など

③ 自由意思による試料提供の決定

④ 病理解剖
病理診断
ご遺族に報告

病理検体を
匿名化
(名前を削除)

病理検体を
保存

病理検体を
研究に
使用

⑤ 試料の提供(寄託)

試料提供審査委員会

- パーキンソン病ブレインバンク ホームページを開設
 - (1) 一般向け：普及活動、説明文書・同意書などのダウンロード
 - (2) 献脳ドナー登録者向け：ドナー登録状況の公開、検体保存実績の公開、試料提供審査委員会の審査結果と検体の提供状況の公開、研究成果の公表
 - (3) 研究者向け：検体保存状況の公開、利用案内

献脳ドナー登録を希望される方へ

ドナー登録の手続き、ならびに病理解剖にいたるまでの流れを説明いたします。
当バンクの活動にご賛同いただける方、あるいは興味を持たれた方は
お気軽にお問い合わせください。

ドナー登録するには

下記までお名前・ご住所・電話番号をお知らせください。資料を送付させていただきます。
〒187-8551 東京都小平市小川東町4-1-1
国立精神・神経センター内
パーキンソン病および関連神経変性疾患
ブレインバンク研究班事務局
TEL 042-346-1868 FAX 024-346-1889
e-mail: info@brain-bank.org

資料請求

検討・相談

同意・承諾

登録書発送

登録完了

ご不明な点があれば事務局までお問い合わせ下さい。担当のコーディネーター・医師が電話、もしくは直接お会いして説明いたします。



必要事項を同意登録書にご記入ください。ドナー登録はご自身の意思表示ですのでご家族の承認は必須ではありませんが、十分相談されることをお勧めします。



登録者の情報がデータベースに記録され、献脳ドナー登録カードが発行されます。カード裏面にご本人がご署名ください。

病理解剖にいたるまで

ドナー登録者が亡くなられた場合は、ご遺族から事務局にご連絡ください。コーディネーターがご遺族の同意を確認したうえで、ご遺体の搬送の準備をします。

登録者の死亡を確認

病理解剖には通常、3~4時間かかります。とくに指示のない場合は全身解剖を行います。終了後はご遺体を死亡病院やご自宅等（搬送経費に上限があります）まで搬送いたします。

事務局へ通報

ご遺体の搬送

摘出された脳と脊髄は所定の処置を経て、保存庫で丁寧に保管されます。
・凍結・超低温槽で保存
・ホルマリンなどの固定液に入れて保存
・パラフィンなどの組織ブロックにして保存
・顕微鏡標本などにして保存

病理解剖

保存庫にて保存

同意していただいた場合は、ご遺体を病理解剖実施病院へ搬送します。ご遺族にもご同行いただき、同意文書に署名していただきます。

- △ドナー登録者の年齢は20歳以上に限定させていただきます。
- △登録後、同意を撤回したい方のために同意撤回書もお送りしています。
- △ドナー登録者の個人情報には医学研究目的の範囲内で使用しますが、その際は、個人情報の重要性を厳格に認識し、関連法律や指針に基づいたうえで細心の注意を払ってこれを行います。

現在の登録者数

2008年1月15日現在で **0,006**人

Wish Vol. 01

平成20年2月号

February 2008

<http://www.brain-bank.org/>

発行/パーキンソン病および
関連神経変性疾患
ブレインバンク研究班事務局

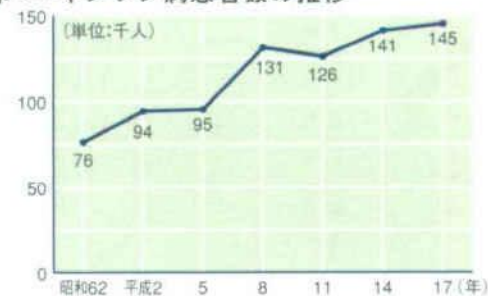
〒187-8551
東京都小平市小川東町4-1-1
国立精神・神経センター内
☎042-346-1868 FAX042-346-1889
e-mail info@brain-bank.org

パーキンソン病ブレインバンクがスタートしました 皆様の意思が難病克服の大きな支えに

厚生労働省の調査によると、平成17年度のパーキンソン病患者数は約14万5千人だそうです。乳がんの患者数が約15万6千人ですから、この数字は決して少なくありません。また、20年前の昭和62年と比べると、その数は約2倍になっています。

パーキンソン病自体は直接、命にかかわるものではありませんが、その症状から日常生活に支障をきたすことが多く、患者本人だけでなく見守るご家族の方々にとっても負担の大きな病気といえます。また、根治のための治療法も確立されておらず、より一層の研究・開発が求められているのが現状です。

■パーキンソン病患者数の推移



(厚生労働省「患者調査報告」「患者調査」より)

パーキンソン病の克服のために

パーキンソン病をはじめとする神経難病の原因究明と治療法の確立のために、現在はマウスなどの実験動物を用いた研究が広く行われています。しかし、より根本的、具体的な研究を行うためには、医師を

はじめとする研究者が、死後脳を直接使用することが必要不可欠です。

欧米では、この研究を支援するために人の死後脳を系統的に保存するための機関であるブレインバンクが比較的早い段階から確立し、一定の功績をあげています。一方、日本でも近年、同様の趣旨を持つ機関が設立されてきていますが、系統だった運用はなされておらず、まだまだ遅れているのが現状です。

日本初の生前同意登録制

パーキンソン病ブレインバンクは、この現状に即して平成18年にスタートしました。私たちの最大の特徴は、「献脳の生前同意登録」を運営の基本としていることです。つまり、「自分の死後に脳を研究のために提供する」という「意思」を登録していただくことをもっとも重視しているのです。

これまででも、死後脳による研究は行われてきましたが、多くはご遺族の同意による提供で、そこには患者の方の意思は介在していませんでした。しかし、当バンクでは、患者の方とご遺族の尊い意思に最大限の敬意を払い、パーキンソン病をはじめとする神経難病の克服に立ち向かうことを約束いたします。言い換えるなら、篤志をもって同意登録して下さった方々は、私たちとともに医学の発展をめざす研究参加者なのです。

いま、なぜブレインバンクなのか？

より実践的な研究のために

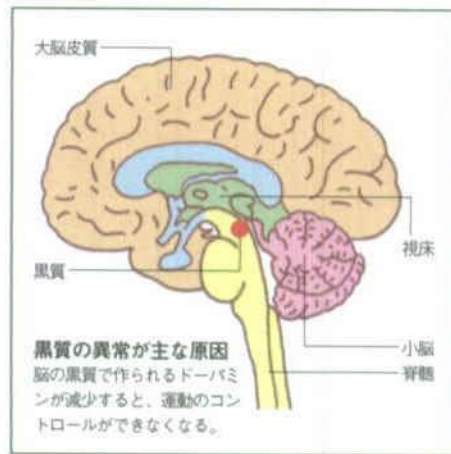
パーキンソン病の薬物療法における中心的な薬であるL-ドーパは、患者の脳の黒質という組織中のドーパミンが、健常者よりも少ないという発見にもとづいて開発されました。今後、さらなる原因究明と治療法を確立するためには、研究のための基礎試料となる死後脳がより多く求められることになりませんが、現状ではその数が圧倒的に不足しています。

徹底したインフォームド・コンセント

同意登録に際しては、インフォームド・コンセントの徹底を心がけております。ご不明な点はブレインバンク事務局までお問い合わせください。担当コーディネーター、医師が、納得のいくまで説明させていただきます。

パーキンソン病とは？

パーキンソン病とは、脳の一部の機能が低下して体をうまく動かすことができなくなる病気です。50～60歳以上の高齢者に多く、年齢を重ねるとともに緩やかに進行していきますが、直接、命にかかわるような病気ではありません。



特徴的な3つの症状

手足のふるえ

力を抜いてじっとしている時に、1秒間に4～6回の規則的なふるえが見られる。



筋肉がこわばる



体がかたくこわばり、関節を動かそうとすると歯車のような抵抗を感じる。

動作が緩慢になる



体の動きが非常に遅くなり長時間同じ姿勢でいられる。表情も乏しくなる。

Gift of Hope

Gift of Hopeは英語圏の多くのブレインバンクで、生前同意登録の際に使われている言葉です。登録していただいた方が死亡された時に、脳などを研究に使わせていただくことにより、病気の原因が解明され予防と治療法が確立される可能性があります。「後の世代の同じ病気で苦しむ人たちに希望という

贈り物をする」という意味がこめられています。

パーキンソン病ブレインバンクは日本でこの運動を広げるためにGift of Hopeをロゴマークに採用しました。



ブレインバンク・インフォメーション

第3回市民講演会が開催されました

平成19年10月27日、東京都千代田区のベルサール神田にて、第3回市民講演会「パーキンソン病の治療法開発と脳バンクの役割」が開催されました。

ブレインバンクの必要性と活動内容の啓発を目的としたこの講演会も今回で3回目となり、当バンクの活動に対する関心の高さがうかがえました。



第4回市民講演会のお知らせ

第4回市民講演会を下記の日程で行います。定員は先着順で160名です。事前予約も可能ですので、FAXまたはE-mailにてお申し込みください。

開催日時：平成20年2月16日（土）12:30～15:30

開催場所：東京都千代田区神田美土代町7

住友不動産神田ビル2・3F ベルサール神田



アクセス：

- 都営新宿線小川町駅（B6出口徒歩2分）
- 東京メトロ丸ノ内線淡路町駅（B6出口徒歩2分）
- 東京メトロ千代田線新御茶ノ水駅（B6出口徒歩2分）
- JR・東京メトロ銀座線神田駅（4番出口徒歩6分）

お申し込み：FAX 043-346-1889

E-mail lect@brain-bank.org

これまでのブレインバンク

「遺体を傷つけてはいけない」「遺体を大切にす」という宗教観、倫理観もあり、日本におけるブレインバンクの設立は欧米諸国と比べて大幅に遅れていました。そのため、個々の研究者が死後脳を用いて研究をしようとする場合は、大きな大学が独自に集めたものに依存するか、海外のブレインバンクに頼らざるを得ないのが実情でした。

産経新聞に当バンクの活動が紹介されました

平成19年10月25日付の産経新聞（25面）に当バンクの活動を紹介する記事が掲載されました。

～脳バンク代表を務める国立精神・神経センター武蔵病院の久野貞子副院長は、「今の患者さんが薬の恩恵を受けているのは、かつての患者さんの脳組織を使った研究があつてこそ。次の世代の患者のため

にぜひ協力してほしい」と話す。～
(掲載記事より抜粋)



産経新聞 平成19年10月25日 「脳バンクに登録を」パーキンソン病研究者ら呼びかけ（無断転載不可）

海外におけるブレインバンク

欧米では1960年代から国公立の大学や病院にブレインバンクが設立され、患者、医師、研究者が一体となって死後脳を使った脳疾患の研究が行われてきました。現在、アメリカでは100か所以上のブレインバンクが運営されています。また、オランダでは年間約150例が蓄積され、累計で1000例以上も保有する大きなブレインバンクもあります。

献脳ドナー登録を希望される方へ

ドナー登録の手続き、ならびに病理解剖にいたるまでの流れを説明いたします。
当バンクの活動にご賛同いただける方、あるいは興味を持たれた方は
お気軽にお問い合わせください。

ドナー登録するには

下記までお名前・ご住所・電話番号をお知らせください。資料を送付させていただきます。
〒187-8551 東京都小平市小川東町4-1-1
国立精神・神経センター内
パーキンソン病および関連神経変性疾患
ブレインバンク研究班事務局
TEL 042-346-1868 FAX 042-346-1889
e-mail: info@brain-bank.org

資料請求

ご不明な点があれば事務局までお問い合わせ下さい。担当のコーディネーター・医師が電話、もしくは直接お会いして説明いたします。



検討・相談

同意・承諾

必要事項を同意登録書にご記入ください。ドナー登録はご自身の意思表示ですのでご家族の承認は必須ではありませんが、十分相談されることをお勧めします。



登録書発送

登録完了



登録者の情報がデータベースに記録され、献脳ドナー登録カードが発行されます。カード裏面にご本人がご署名ください。

病理解剖にいたるまで

ドナー登録者が亡くなられた場合は、ご遺族から事務局にご連絡ください。コーディネーターがご遺族の同意を確認したうえで、ご遺体の搬送の準備をします。

登録者の死亡を確認

病理解剖には通常、3~4時間かかります。とくに指示のない場合は全身解剖を行います。脳のみ解剖も選択できます。終了後はご遺体を死亡病院やご自宅等（搬送経費に上限があります）まで搬送いたします。

事務局へ通報

ご遺体の搬送

同意していただいた場合は、ご遺体を病理解剖実施病院へ搬送します。ご遺族にもご同行いただき、同意文書に署名していただきます。

摘出された脳と脊髄は所定の処置を経て、保存庫で丁寧に保管されます。
・凍結し超低温槽で保存
・ホルマリンなどの固定液に入れて保存
・パラフィンなどの組織ブロックにして保存
・顕微鏡標本などにして保存

病理解剖

保存庫にて保存

△ドナー登録者の年齢は20歳以上に限定させていただきます。
△登録後、同意を撤回したい方のために同意撤回書もお送りしています。
△ドナー登録者の個人情報、関係法律や指針に従って細心の注意を払って保護します。

現在の登録者数

2008年3月6日現在で

0,014人

Wish

Vol.02

平成20年3月号
March 2008

<http://www.brain-bank.org/>

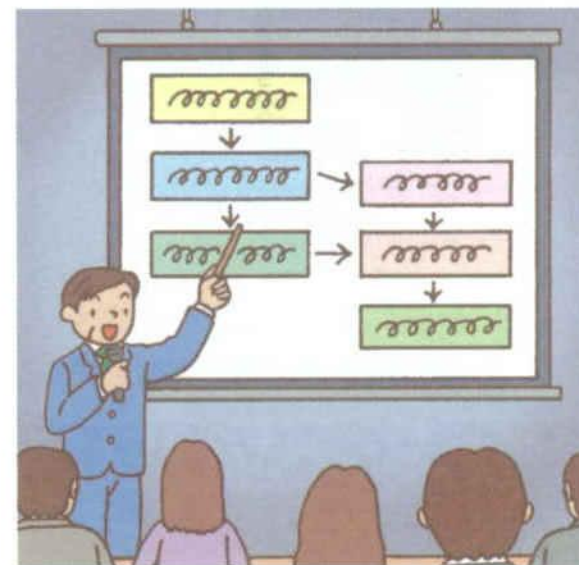
発行/パーキンソン病および
関連神経変性疾患
ブレインバンク研究班事務局
〒187-8551
東京都小平市小川東町4-1-1
国立精神・神経センター内
☎042-346-1868 FAX042-346-1889
e-mail info@brain-bank.org

パーキンソン病ブレインバンクでは定期的に市民講演会を開催しています

2月16日、東京都千代田区のベルサール神田で、第4回市民講演会「パーキンソン病の治療法開発と脳バンクの役割」が開催されました。今回は、この講演会の内容を要約して紹介させていただきます。

なぜ、ブレインバンクが必要なのでしょう

1817年、J・パーキンソンによってその症例が報告されて以来、20世紀前半までパーキンソン病は、手術を中心とした治療法が模索されてきました。その後、薬の研究が進み、1958年にはA・カールソン教授が脳内にドーパミンを発見、1959年には佐



野勇教授が、病気の原因はドーパミンの不足が原因であると発表しました。そして、1967年には治療薬の決定版といえる「L-ドーパ」が開発されたのです。これら治療法の開発は、研究者の方々の才能と努力の結晶なのですが、同様に欠かせないのが、研究の際の試料として提供された「死後脳」の存在です。理論上で治療法を解明しても、実際に人間の脳組織を用いた検証がなければ、効果を確認できませんし、実用化もできません。

欧米では、早くから研究試料として提供された死後脳を統括的に管理するブレインバンクが確立されていましたが、残念ながら日本はこの分野において立ち後れているのが現状です。今後、社会の高齢化がますます進展するなか、ブレインバンクの充実がパーキンソン病を克服するための急務といえます。

パーキンソン病の薬はドーパミンの不足を補い、症状をやわらげます

パーキンソン病は、ドーパミンの不足によって発生します。この物質は脳内でつくられ、運動の指令をスムーズに伝える役割がありますが、不足すると「ふるえ」「体のこわばり」「動作の緩慢」などの症状を引き起こします。

パーキンソン病の薬には様々な種類がありますが、

中心的な薬は「L-ドーパ」です。これは、ドーパミンの元になる物質をそのまま服用するもので、効果がはっきり出ますが、長期間使用していると次第に薬の効果が薄れていくのが欠点です。

「ドバミンアゴニスト」は、ドーパミンと同じ働きをする物質が含まれており、L-ドーパよりも効き目が穏やかで長く効果が持続しますが、眠気が起こりやすいという欠点があります。他にもドーパミンの分解を抑える薬や、ドーパミン以外の物質に作用して症状を抑える薬などがあり、場合によってはこれらの薬を併用します。その際に大切なのは、個々の症状にあった薬を処方してもらうことです。



パーキンソン病の外科手術

前述した薬を服用しても、あまり改善が見られないときは、外科的手術を行うこともあります。

これは、淡蒼球や視床、視床下核などの脳の深い場所にある組織を手術するもので、目的の部分を手術して症状を抑える「熱凝固療法」と、目的の部分に電極を埋めこむ「脳深部刺激療法」があります。

前者は以前から行われており、効果が明らかで比較的安全ですが、話しにくくなる障害が出る場合があります。後者は電極を体に埋めこむため、必要な時にだけ作動させられますが、電池の寿命がきたら本体を交換する手術が必要です。将来は、遺伝子治療や神経細胞移植などの治療法が実現すると思われませんが、現在はいずれも実験段階です。



パーキンソン病ブレインバンクでは登録された方の生前の意志を尊重します

私どもは、パーキンソン病の原因解明と治療法の確立を目指しています。今までの日本のブレインバンクでは、ご遺族の同意により死後脳を保存・研究使用してきましたが、そこには患者の方ご本人の意思が問われることはありませんでした。

そこで私どもは、ドナー登録の際に「自分の死後に脳を研究のために寄贈する意志を登録すること」（献脳の生前同意登録制）を導入しました。この同意は、ご遺族の同意を補完し、医学研究参加における「個人の自立性の尊重の原則」を満たす点において大きな前進といえます。



●講演者および講演題目（講演順）

- ・永津俊治（藤田保健衛生大学医学部薬理学講座 名古屋大学環境医学研究所脳機能分野客員教授）
「パーキンソン病及び関連神経変性疾患の克服のために：脳バンクの必要性」
- ・森秀生（順天堂大学医学部附属越谷病院 神経内科 准教授）
「パーキンソン病-症状からお薬まで」
- ・久野貞子（国立精神・神経センター武蔵病院）
「パーキンソン病の外科治療の適応と問題点」
- ・有馬邦正（国立精神・神経センター武蔵病院）
「パーキンソン病の献脳生前同意登録の紹介」

ブレインバンク・インフォメーション

第1回 ブレインバンク説明会が開催されました

平成20年3月7日、東京都小平市の国立精神・神経センター武蔵病院にて「第1回ブレインバンク説明会」が開催されました。当日は約20名の方にご参加頂き、パーキンソン病ブレインバンクの必要性、そこから何が分かってくるのか？登録から献脳まで実際の手順などについての説明会を行いました。ブレインバンクに対する不安や、登録、病理解剖などで不安に思うことなどを事務局担当の有馬邦正先生にお話頂きました。また、オブザーバーとして毎回神経内科担当医の先生にも同席をお願いし、今回は副院長久野貞子氏、第二病棟部長村田美穂氏に出席して頂きました。色々なご意見、ご質問を頂戴しましたので、今後ホームページでも公開し、研究活動に生かして行きたいと思えます。この会は今後も月1回程度開催の予定です。今後の予定は下記のとおりです。

開催日時：平成20年5月7日（水）15:00～

開催場所：東京都小平市小川東町4-1-1
国立精神・神経センター病院
第一会議室

アクセス：

- ・西武新宿線荻山駅（南口）下車、徒歩10分
- ・西武多摩湖線青梅街道駅下車、徒歩10分
- ・JR武蔵野線新小平駅下車、徒歩15分

お問合せ：e-mail:info@brain-bank.org

☎042-346-1868

「パーキンソン病友の会」総会開催のお知らせ

埼玉県パーキンソン病友の会総会

開催日時：平成20年5月11日（日）

開催場所：埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-7-5
大宮ソニックシティ 市民ホール4F

演題名：私の生きざま～医者として、患者として（仮題）
演者：橋爪鈴男（HOPE『最新治療に関心のあるパーキンソン病患者と不随意運動症患者と家族の会』代表・パーキンソン病ブレインバンク運営委員会委員）

アクセス：JR大宮駅下車、徒歩3分

東京都パーキンソン病友の会 平成20年度定期総会

開催日時：平成20年5月28日（水）10:30～

開催場所：東京都江戸川区船堀4-1-1
タワーホール船堀 小ホール

講演：講師、演題未定

マンドリン演奏（マンドリンアンサンブル6432）

アクセス：都営新宿線船堀駅下車、徒歩約1分。

お問合せ：☎042-348-3763

日本神経病理学会 第49回 日本神経病理学会総会にて発表します。

開催日時：平成20年5月20日（火）～22日（木）

開催場所：東京都江戸川区船堀4-1-1 タワーホール船堀
演者：有馬邦正（国立精神・神経センター武蔵病院臨床検査部）

演題：「パーキンソン病および関連神経変性疾患の生前同意登録に基づく脳バンクの開始」

※参加は学会員に限られます。一般の方は参加できません。

Gift of Hope

Gift of Hopeは英語圏の多くのブレインバンクで、生前同意登録の際に使われている言葉です。登録していただいた方が死亡された時に、脳などを研究に使わせていただくことにより、病気の原因が解明され予防と治療法が確立される可能性があります。「後の世代の同じ病気で苦しむ人たちに希望という

贈り物をする」という意味がこめられています。

パーキンソン病ブレインバンクは日本でこの運動を広げるためにGift of Hopeをロゴマークに採用しました。

